

辺野古新基地建設阻止のための二つの行動

木村雅夫

省交渉で直接訴え敵を知る

「辺野古への基地建設を許さない実行委員会」では、辺野古への基地建設を止めるように直接関係官庁に訴えるために面談交渉を実施してきている。○四年九月一三日に防衛施設庁と開始して以来、防衛施設庁・防衛省と十回、環境省と九回、外務省と二回、当初は直接アポイントを取って辺野古実が省庁を訪問していたが、最近は議員に仲介をお願いして実施することが多い。昨年五月に「ぶんご」が出動したあと、六月一四日に防衛施設庁と交渉、約二〇名が参加した。辰巳施設企画課長が、理由のひとつは反対派の妨害活動が予想されたから、札幌の雪まつり支援と同様で治安出動ではない、現場の要請でなくトップの判断で出動した、と居丈高に答えたいことを思い出す。

去る一〇月八日にも、山内議員にお願ひして、防衛省と環境省それぞれ一時間半かけて交渉した。守屋次官逮捕のあと入れ替わった防衛省の担当が、県議会決議を「重く受け止めなければならない」と認めながら、「パッケージ」論を説明し、普天間基地機能は「国防」の観点から必要と抗弁した。環境省は、二年前にはボーリング調査でサンゴ礁が傷つけられたことに関心を示し防衛施設庁の担当に確認する、とわれらの味方と思われる発言もあったが、最近ではアセスの内容は事業者である防衛省に聞くように、の答ばかり。「ジュゴン裁判」、アオサンゴ群落発見、国際自然保護連合（IUCN）がアオサンゴを絶滅危惧種と認定、ジュゴン保護を求める勧告を採択、五月に「生物多様性基本法」制定、「第3次生物多様性国家戦略」などを考えれば、環境省が積極的に辺野古大浦湾の環境保護を訴えるべきなのに、こと辺野古基地建設に関しては見ざる聞かざるを決め込んでいるよう。今後「普天間飛行場の移設に係る措置に関する協議会」などで大臣が意見を述べるだろうと答えたが、本当にどこまでできるか危うい。

それでも、前回（四月七日）に山内議員がアオサンゴ群落の現場を見るように強く要請した折に固辞していた自然保護局の専門官が八月に現地を見ていた、など担当レベルではしっかり環境を守る意欲も垣間見える。それにしても、官僚も人の子、最もいいにくいことを答えるとき声が俄然小さくなる。テープ起こしでは再生ボリュームを一杯に上げて何度も聞きなおさねばならなかった。交渉結果は今まとめ中、もうすぐ辺野古実や反安保のウエブにアップするので是非ご覧いただきたい。

「辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」にご協力を

官僚にばかりでなく国会にも訴える。辺野古実は、沖縄県議会の「名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する意見書・決議」を受けて、この決議の尊重と辺野古新基地建設中止を訴えるべく、国会請願署名（「7・18県議会決議を尊重し、辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」）を開始した。基地建設は沖縄に一層負担を強いる、現地阻止行動が続いている、県民が反対している、県議会決議がなされた、辺野古はジュゴンやアオサンゴ群等の豊かな生物多様性の宝庫である、基地提供は米国による侵略戦争に日本が荷担すること、基地恒久化と日米軍事一体化をもたらす米軍再編を阻止しよう、我々の税金で米軍基地をつくるな、と強く訴えたい。同封の署名用紙への署名をお願いします。できれば、署名用紙を複写して沢山集めて郵送してください。署名集約は二〇〇八年一二月三二日、詳細お問い合わせなどは左記にどうぞ。

【呼びかけ団体・署名集約先】辺野古への基地建設を許さない実行委員会

<http://www.jcaapc.org/TK/NonNewBases/NNBJ.html>

【問い合わせ】090・3910・4140、または市民の心は（03・59275・5089）、木曜夜（きむらまさお／反安保実）